



内子座 藝於遊



扁額「藝於遊」の取外し

令和7年8月28日、内子座の棧敷正面、箴欄間の中央に掲げてある扁額「藝於遊」が取り外されました。本来は「遊於藝」と記述するのが正しいこの扁額は、「藝に遊ぶ」と読み、論語の「道に志、徳に拠り、仁に依り、芸に遊ぶ」という教えから先人が内子座に掲げたのではないかと推察されます。「藝」とは六芸のことで、礼（礼儀作法）、楽（音楽）、射（弓術）、御（馬術）、書（習字）、数（算術）のことを指し、「学問武芸に悠々楽しみながら勉強する」という意味になります。内子座がこうした精神のもとで活用されていることが誇らしく思えます。このかわら版もその精神にあやかりたい思いでタイトルにさせていただきました。この扁額は内子座楽屋で展示しています。ぜひ間近でご覧ください。



扁額の取外し様子
(8月28日撮影)

内部足場の完成

右下の写真は、内子座内部の様子です。鳥屋から出たところの花道から舞台に向かって撮影しました。箄まつりの頃から組み立てられてきた内部足場も8月末に完成。内部での工事も本格化します。



天井板の解体

内部足場の組立と同時並行的に行われた天井板の解体。左の写真は、2階東棧敷の天井板を取り外している時の様子です。天井裏の小屋組みがあらわになってきました。こうして見ると、内子座の建て方、小屋の組み方には、無駄な隙間がなく、最小限の大きさで最大限の空間利用がなされていることがわかります。また、2階の天井板は、大正時代のもので多く残されており、注意深く丁寧に取り外されていきました。

